

【ポスター発表（8）】

団体名： 京丹後市国際交流協会



● 協会のあゆみ ●

京丹後市国際交流協会は、2008年3月に発足。
設立5周年の節目となった2013年には、協会の活動目的に“多文化共生社会の実現にむけた取り組みの推進”を加え、外国籍の方へのサポートだけでなく、その多様性を活かせる地域づくりの活動も推進していきます。（日本語教室開始 2009年9月）

■所在地 〒627-8567

京都府京丹後市峰山町杉谷 889

■連絡先 TEL 0772-69-0120 FAX 0772-69-0901

Email kokusai_koru@city.kyotango.kyoto.jp

■役員 会長 藤村益弘 副会長 2人

理事 4人（中国籍、フィリピン籍各1人）

《事業紹介》

- ① 国際理解の啓発事業 : 国際理解教室（講演会）・語学講座（英語・中国語）など
- ② 交流推進事業 : ホームステイの受入・料理教室・交流パーティーなど
- ③ 日本語教育事業 : 日本語教室・ボランティアスキルアップ研修会
- ④ 多文化共生事業 : 市民、関係機関等との研修会・外国人相談窓口などの4つの柱で行っています。

♪ 協会の活動の様子 ♪



▲音楽をととしての国際理解の啓発
（ロシアの民族音楽演奏会）



▲在住外国人が講師
（英語講座）



▲京都市内の留学生と交流
（ホームステイの受入）

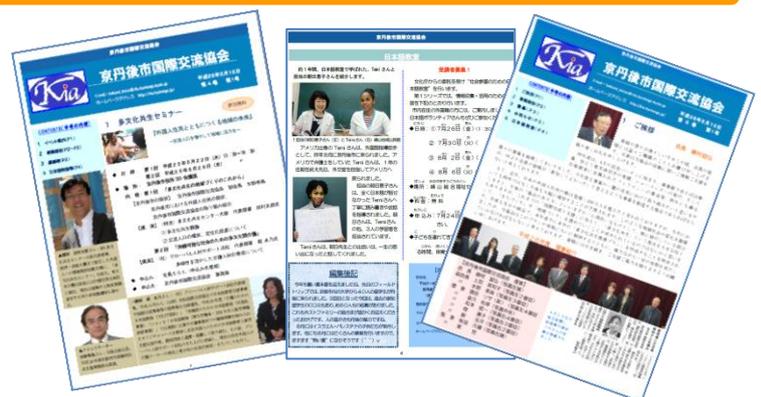


▲世界の料理に挑戦
（インターナショナルクッキング）



←市民向け講演会
（多文化共生推進）

♪ 協会のニュースレター（年4～5回発行） ♪



事業実施概要

事業名称	社会参画にむけた日本語教室			
地域の課題	<p>当協会は平成 21 年度 9 月から日本語教室を開催。</p> <p>市内在住の外国籍住民は約 370 人。その半数はフィリピン出身者で、多くが日本人と結婚している。最近では日本人とベトナム人の結婚も増えてきている。</p> <p>在住外国人が地域住民として暮らすために必要な知識や情報の収集などに関する学習機会の提供は不十分であり、これからの在住外国人の積極的な社会参画が進まない一因となっていると考えられる。</p>			
事業の目的	<p>生活者としての外国人が、情報収集能力をつけ、制度等の理解を深め、自立と社会参画を促進し多文化共生のまちづくりに資することを目的に、生活に関する身近な制度についての知識や地域の慣習等についての理解を深める。</p>			
事業内容	取組 1		取組 2	
	名称	くらしの情報収集・情報活用のための日本語教室	名称	日本文化の日本語教室
	内容	<ul style="list-style-type: none"> * 生活に役立つ情報発信元を知る * 情報発信元から、よく使われる言葉について * 自分や家族の情報等を書く 	内容	<ul style="list-style-type: none"> * 日本文化の特徴や言葉などを学び、おもてなしや思いやりの文化を理解するとともに必要な日本語を学ぶ 茶道・書道・華道・着付け
	対象	市内在住外国人	対象	市内在住の外国人
	時間	1 回 2.5 時間 × 8 回(全 60 時間)	時間	1 回 2.5 時間 × 8 回(全 60 時間)
	人数	26 人	人数	17 人
	取組 3		取組 4	
	名称	日本語マナー講座	名称	日本語教育推進委員会
	内容	<ul style="list-style-type: none"> * 母国と日本の冠婚葬祭やビジネスマナーの違いについて * 敬語・丁寧語の学習 * 就職にむけてのステップを学習 	内容	<p>今後の日本語教室の運営、人材育成、市民への周知の取り組みについて、関係機関等と日本語教室の中核メンバーで検討を行った。</p>
	対象	市内在住の外国人	対象	日本語教育関係者等
時間	1 回 2.5 時間 × 8 回(全 60 時間)	時間	3 回 3 時間 × 3 回(全 9 時間)	
人数	17 人	人数	8 人	
連携体制	<p>市広報担当課、消防本部、ハローワーク、市内企業などと連携し、日本語講師だけでは教えることができない専門的な内容を学習に盛り込んだ。</p>			
成果と課題	<p>今回協力していただいた市内企業には、在住外国人の就業への意欲を理解してもらい、就業するために必要なことなどを学習者に伝えられたことが、「日本語を勉強して、どう活かすか」というイメージが描きやすくなり、学習意欲の向上に繋がり、通常の日本語教室でも学習する方が増えた。</p>			
発表者から一言	<p>この日本語教室の内容は、在住外国人から、「こんな勉強がしたい」という、提案を受け企画しました。今後も、在住外国人がそれほど多くない地域の強みとして、“顔が見える”関係を築き、学習者のニーズを取り入れた日本語教室を取り組んでいきます。</p>			